

「避難所生活から考える男女平等社会をめざして」

皆さんは、「男女平等」と聞いてどう思われますか？

今の世の中、そしてあなたの身近な生活の中で男女が平等となっているのでしょうか？

大震災のあった被災地で、被災者の方々からの数々の相談や避難所生活を経験され、その教訓を活かすために全国各地で講演をしている方からお話をうかがいました。

避難所生活では、被災者が互いに助け合い、力を合わせていくことが必要になります。長引く避難所生活では、食事を作るのは女性、力仕事は男性といったような、性別役割分業意識に起因した生活スタイルが見られます。

このような性別役割分業意識に基づいた避難所生活は快適でしょうか。快適とは思えません。なぜなら、性別によって能力に差があったり、得意不得意が決まっているとは限らず、個人個人が持っている力を存分に発揮することができていないからです。また、性別役割分業意識に基づき、男性のみが避難所運営に携わっていくと女性の視点に欠けてしまいます。

女性の視点が避難所運営に反映されないと避難所生活の質の低下を招くものとなります。それを防ぐには避難所運営に女性が参加することや女性リーダーが求められます。

また、日頃からの災害への備えとして、男女平等の意識に基づいた地域のコミュニティづくりも大切です。地域には、自治会や少年団、その他数々の集団があります。それらの集まりの中で、男女や年代を問わず顔見知りになることで、いざと言うときに強力なパワーを発揮してくれます。

地震、台風、水害などの災害はいつ起こるかわかりません。避難所生活では、限られた空間の中で多くの人たちが集団生活を強いられる中で、平時から男女平等の意識を持つこと、男女平等の意識に基づく地域コミュニティへの参画が大切であることを教えられました。

皆さんも、ぜひ考えてみてください。

※このコラムは、男女平等推進事業企画・運営協力員が執筆しています。

※平成28年度「広報あさか 9月号」に男女平等推進情報「そよかぜNo.37 わたし流防災会議 Day」を掲載しています。ぜひご覧ください。市ホームページからも閲覧できます。
(次回は7月号に掲載します。)

